

令和7年度第8回松平地域会議 会議録

日 時 令和8年1月14日（水）午後7時から午後8時15分
場 所 松平交流館 大会議室
出席者 太田市長、地域会議委員11名（欠席5名）
事務局4名、傍聴者2名、関係所管3名

【内 容】

1 会長あいさつ

2 市長あいさつ

3 提言

（1）提言書受け渡し

太田市長と松平地域会議会長で提言書の受け渡しが行われた。

（2）提言内容の説明

松平地域会議会長から提言内容の説明が行われた。

提言書に記載された内容から、強調して伝えたい部分を抜粋して伝えられた。

（3）全体意見交換

【委員】

- ・鳥獣の被害が年々増えてきている。なおかつ、熊の出没・目撃情報が11月以降で4件。急に目撃情報が増え、住民もクマについての関心度が非常に高まっている。
- ・現状、豊田市の施策は農業従事者及び農事組合に対する対策が多くあるが、高齢化に伴って農業従事者が減っている。今被害として困っているのは農業以外の法面の被害など。9月5日の台風15号では、松平や下山の被害が非常に多かった。鳥獣に崩された法面が影響して、道路や水路にも大きな被害があった。あれから、雨が降る毎に非常に不安が増した。市にはぜひそういった被害についても考えていただきたい。
- ・鳥獣害防止対策計画の次期3か年計画について、従来とは違う、特に熊や天災など、これまでにない新しい考え方があるのか聞きたい。

【委員】

- ・シカやイノシシの事故がかなり多くなっている。しかし保証はない。301号線はかなり獣横断が多くなっており、住民並びにそこを使われる方々が困っている。
- ・草刈りなどの整備を行っているが追いつかない。昨年、自分の自治区では月に30頭ほどイノシシが檻の中に入った。今朝もシカが1頭捕まっており、頻繁に住民のそばまで来ている。獣友会も1週間に1回は山を見ながら活動しているが、手の施しようがないような状態。住民が危機感を持っており、災害にもつながる現状。対応に悩んでいる。
- ・あるゴルフ場で青い紐を引っ張ったことによってイノシシが来なくなったらしく、今実験をしている。4件ほど知り合いにも試してもらっている。たまたまイノシシが少ないだけかもしれないが、今のところ結果は良好。自分たちで試してみるということも必要かと思う。
- ・温暖化に伴ってスズメバチがかなり多くなっているが、個人敷地内は行政の対応はない。駆除にかかる費用は高額だが、高齢化で多くなっている年金生活の方には負担が大きい。刺されたら危険な蜂の対策についても、考えていただきたい。

【委員】

- ・子育てについて。現在この辺りもかなり子どもの数が減ってきていて、通学団もかなり縮小している。昔と違う光景で寂しさを感じる。
- ・高校生、大学生になると、毎朝送迎する家庭も多い。渋滞もあり、送迎には1時間ほど要している。バスに頼りたいが、近くにいい時間のバスがない。高校生、大学生の交通が気になっている。高齢の方は地域タクシーなどを上手く利用しているが、子どもが交通難民という状態。市の、定期補助などの制度が大学生などにも波及しないかと思う。

【委員】

- ・山の方に住んでいるためか、家に帰って車から降りると、すぐにイノシシがいる。住宅付近に獣がいるような状態。散歩をしようにも、すぐにイノシシを見かけて、諦めて帰ることも。今のところ人的被害はないが、今後出るかもしれない。子どもたちにも被害が及んでくる可能性もある。人的被害が出る前に、何か対策など、ご検討いただきたい。

【委員】

- ・塾についても、松平からだと遠いので送迎が必要だが、共働きということもあり、かなり負担になっている。送迎のサービスやボランティアなどの施策を手厚くしていただきたい。
- ・登下校の見守り隊についても、共働きの増加の影響もあるのか、2日に1回、3日に1回とだんだん負担が大きくなっている。
- ・鳥獣害にも関連する情報発信について。鳥獣害の施策は色々としていただいていると思うが、その情報を取りにホームページなどを検索すると、所属ごとに整理されている印象で、分かりづらい。住民の生活課題に沿った表示方法など、ホームページの見やすさなども改善していただきたい。

【委員】

- ・地域会議委員の声を聞いてると、獣害が増えていることを実感した。しかし、車と鳥獣との事故データがない。事故の頻度などを豊田市でまとめて、危険をアピールするような情報展開があるといい。ラリージャパンなどでも、被害が起きないか不安である。

【委員】

- ・よく猿を群れで見かけるようになったと聞く。群れと群れが喧嘩し合ってたという話もあった。猿の増加状況や猿に対する対策について知りたい。

【委員】

- ・子育て対策と鳥獣害対策を提言させていただく。市の対応については、現状しっかりとやっているといつとも、実際に生活している者から見るとまだまだ不十分だと感じ、今回この提言に至った。
- ・農業従事者でなくとも、周りにたくさんイノシシもシカもあり、家の目の前の檻の中にもよく鹿が入る。農業対策として農業柵で囲われており、農道だけが残されていることで、農道を走ってきて檻に飛び込む状況だと考えている。人に害を与えるようになってしまふと危険。対策として、農業対策だけでなく、生活している人への安全対策という視点にも力を入れていただきたい。

- ・子育てに関しては、今に始まつたことではないが、共働き・核家族という環境の影響はあると思う。子どもの育ちを家庭で支えることが難しくなっている。とはいって、同居するべきだという訳ではなく、地域で支えられるような体制ができることがいい。子どもにとって何が1番いいのかというような気持ちを常に持った政策展開、そして、子どもだけでなく大人、高齢者、地域にとって何が1番いいのかという視点が常にあって、施策が動いていると良い。

【市長】

- ・青い紐の話は横展開の可能性を探るべきであるし、大学生の定期補助の話も高校生と同じように考えるべきだと感じる。
- ・鳥獣害の話は、事前の予防策では難しいかと思う。法面の対応などの話は事後対なので、やる仕組みを持てば手が打てる。
- ・鹿の事故については、鹿笛について紹介したい。地域によっては消防車両が鹿笛をつけており、安いとのこと。その仕掛けというのは、鹿にしか聞こえない音が前面から出て、鹿が避けるというもの。鹿笛の熊に対する効果は検証したことがないとのことであった。やれることをやるしかないというのが回答になる。
- ・猟友会については、新規の狩猟免許が非常に取りにくく、猟友会の高齢化が進んでいる、状況としてあまり良くない方向に行っている。
- ・熊の話は、県と協議をしている状況。愛知県の熊の扱いは絶滅危惧種。愛知県に熊は2頭～3頭、そのくらいしかいないとのこと。絶滅危惧種扱いであるため、簡単に手を出せないような状況になっている。長野や岐阜などとは、熊に対する対応が違っている。

5、6年前、豊田市で熊が檻に入ってしまい、殺すわけにもいかず、どこかへ放さなければいけないということがあった。全国の熊牧場のようなところに電話をかけてやっと引き取り先が決まった。それに加えて、全国の、熊を守る団体の方から電話があり、熊を守るべきだという意見も多数入った。とても対応が難しい話である。しかし、豊田市内だけでも目撃情報が年に50～60件ある状況であり、絶滅危惧種という扱いは早急に調査して変えてほしいという依頼を出している。

- ・子どもの塾の送迎などについては、タクシーチケット出せばいいという問題ではない。おいでんバスもコースが固定であり、時間も十分に走っているということはない。
- 現在、共助交通という仕組みがある。地域の方がドライバーの役目を担い、乗せてほしい人のマッチングをしっかり行って、需要を満たすというもの。最初に始めたのが水源。敷島や前林、高岡でも始まった。地域の課題を地域で解決しようという動きは、移動手段の確保という意味では始まっているため、参考にしていただきたい。
- ・ホームページについては検討する。
- ・車と鳥獣との事故情報について、今はその情報をどこかに持ち上げるという仕組みになっている。こういう仕組みを構築するとなれば、地域の皆さんに確実にその情報を上げていただかないと、すぐに陳腐化してしまう。通常の交通事故であれば、警察扱いなので統計的な処理が可能だが、鳥獣害の場合はそういう扱いになっていない。そのため、現状難しいかと思うが、もしも仕組みを構築するであれば、協力を依頼することになる。
- ・猿について。稻武で猿の群れが檻に捕まってしまい困ったことがある。猟友会も猿への対応は困っている。しかし、猿は人に危害を加えるため、今後の対応は検討が必要。
- ・スズメバチの対応について。ハチの巣は値もつくと聞く。駆除にもお金がかかるが、結構値がつくそう。以前、美里の方の空き家にハクビシンが住み着いてしまい、なんとかしてくれない

かという話があった。空き家の持ち主も分からず苦労した。個人の家のことは個人で対応という形が一般的ではある。

高齢化が進むことで、空き家や耕作放棄地が増えている。鳥獣の被害は確実に増加する。蜂も含めて、一度検討する。個人の財産に対して税金を投入することについて全市的に理解が得られるかという問題もあるため、どういう結論が出るか分からないが、時間をいただきたい。

・ラリージャパンの話をさせていただいた。ヨーロッパの方で、ラリージャパンは熊が出るらしいという噂が流れてしまったらしい。競技が始まってしまえば、あれだけの音なので熊は寄り付かないと思われるが、準備段階でいろんな山の中に入るために、熊対策は心配があった。鈴やラジオなどの対策は十分に打っていたので、問題ないかとは思っていたが。幸い去年は11月でよかったです、今年は5月末。冬眠明けということも考慮した準備が必要。

・松平地域まちづくり構想の将来像「みんな元気で笑い合う」とは。

【委員】

・笑顔で幸せに暮らしているという意味合いで理解している。お互いが繋ぎ合い、笑い合い、向き合って、幸せの延長というような、自然と笑みがこぼれるという状況を指すと、自分の解釈はそのようにしている。

【市長】

・移住してくる人たちが、一体どういうところに着目して移住先を決めるのか考えた時に、そこに住んでる人たちが、笑顔が絶えない状況は大きいのではないかと思う。例えばその人が将来その地域に移住したら、自分の将来はこんなふうに地域の中で笑いながら暮らすことができるんだと感じるのではないか。それは、子どもも同様で、松平の子どもたちが地域の大人たちを見ていて、笑顔が絶えない、そんな様子をいつも見てるのであれば、松平がいいと感じるのでないか。みんな難しい顔して、あれがない、これが問題というような話ばっかりが出てきてしまうと、子どもたちはなんとなく、ここでこれからも暮らし続けることに対して夢や希望などを持ちづらくなる。新しい移住先を探そうという人には、選ばれないだろうと思う。

だからこそ、「みんな元気で笑い合う」というこのフレーズはとてもいい、これに向けて、将来像が地域で共有されるとすごくいいと思って質問した。

・本日お聞かせいただいたのは、松平の大変なところだが、いいところについても十分ご承知かと思う。ぜひその松平のいいところをさらに伸ばしていただき、もちろんこういう課題に対しても具体的に打てる手は打ち、この松平がもっと素晴らしい地域になるように、共働をお願いしたい。

4 市議あいさつ

5 報告

前回の議事録について

次回会議について

- ・日 時：令和8年2月4日（水） 午後7時から
- ・場 所：松平交流館 大会議室
- ・議 題：第11期地域会議委員選考委員会の結果報告 など